

お客様各位

2014年10月3日

## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



## 1. マーケット・レート

			9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2.4480	2.4470	2.4810	2.4950	2.4580	-0.0370
	USD/YEN	Spot	109.48	109.66	108.90	108.42	109.77	+1.3500
	EUR/USD	Spot	1.2686	1.2630	1.2622	1.2669	1.2515	-0.0154
	BRL/YEN	Spot	44.73	44.82	43.89	43.46	44.65	+1.1900
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1.20	1.27	1.36	1.38	1.28	-0.1010
		1Year(p.a.)	1.58	1.62	1.74	1.87	1.80	-0.0690
Real Interest	Real Interest	6MTH(p.a.)	11.26	11.24	11.26	11.32	11.28	-0.0400
		1Year(p.a.)	11.83	11.77	11.86	11.85	11.76	-0.0918
Stock	Bovespa		54,625	54,116	52,858	53,519	54,540	+1,020.98
Bond	CDS Brazil 5y		177.64	175.30	177.14	175.83	175.00	-0.8300
	Global 40		109.050	109.225	108.825	108.850	108.950	+0.1000

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィスまでお問い合わせ下さい。



## 2. 主要経済指標

## 3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	備考
HSBC ブラジルコンポジットPMI	--	50.6	49.6	
HSBC ブラジルサービス業PMI	--	51.2	49.2	なし

## 4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はU\$1=R\$2.4620で寄り付いた。
- 週末に香港で大規模な民主化デモが発生したことを受け、週初からリスク資産売りの流れとなり、新興国通貨が下落した。レアルは先週引けの2.4200から大きくレアル安方向に窓を開けて寄り付いた。週初に発表された中銀のアナリスト予想調査では、2014年のGDP見通しが18週連続で下方修正され、前回の0.30%から0.29%に引き下げられた。レアルは2008年12月以来の水準となる2.48台後半まで下落した。その後は介入警戒感もありレアルは反発し、米中古住宅市場の予想以上の落ち込みを受けてドルが売られると、レアルは週間高値となるU\$1=R\$2.4420を示現した。
- 週央からはブラジル財政収支の悪化、貿易収支の悪化など、弱い指標が続いたことに加えて、ルセフ大統領の再選を予想する報道が相次いだことから、レアルが売られた。香港民主化デモが長期化したことでもリスク資産としてのレアル売りを後押しした。
- 2日にはECB理事会が開催された。政策金利が据え置かれ、カバード債やABSなどの資産購入に関するアナウンスがあったが、具体的な購入金額には触れられなかつた。ECBが低迷する欧洲経済をテコ入れするためにどの程度バランスシートを拡大するのか市場関係者の焦点だったが、金額が示されなかつたことから、失望感から欧洲株が全面安となった。ボベスパ指数も安値を伺う動きだったが、7月以来の安値を更新すると、選挙前の利益確定の買戻しが出て反発した。レアルは米雇用統計が予想を上回るとの噂を受けて、2.47台から2.50近くまで下落した。
- 3日に発表された米9月雇用統計は非農業部門雇用者数が前月比248千人となり、予想を大きく上回った。前月分も142千人から180千人上方修正された。失業率は5.9%まで低下し、リーマンショック以来始めて5%台に到達した。この数字を受けて為替市場はドル全面高の展開となり、レアルは週間安値となるU\$1=R\$2.5070を示現した。他通貨ではドルは高止まりだったが、レアルについては週末の大統領選挙を前に利食いやポジション調整が出て急反発し、結局U\$1=R\$2.4580で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

## Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



### 5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
10/6	自動車生産台数(ブラジル自動車工業会)	Sep	--	265910
10/6	自動車販売台数(ブラジル自動車工業会)	Sep	--	272492
10/6	自動車輸出(ブラジル自動車工業会)	Sep	--	31651
10/6	貿易収支(週次)	Oct-05	--	-\$42M
10/7	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Sep	0.16%	0.06%
10/7	FGVインフレ率IGP-DI(前年比)	Sep	--	4.63%
10/8	FGV CPI IPC-S	Oct-07	0.52%	0.49%
10/8	IBGEインフレIPCA(前月比)	Sep	0.47%	0.25%
10/8	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Sep	6.64%	6.51%
10/8	商品価格指数(前月比)	Sep	--	-1.34%
10/8	商品価格指数(前年比)	Sep	--	-2.69%
10/9	FIPE CPI-週次	Oct-07	0.28%	0.11%
10/9	IGP-M Inflation 1st Preview	Oct	0.24%	0.26%

### 6.来週の為替市場注目点

#### 予想相場レンジ：2.40—2.50

今週は香港民主化デモに始まり、ECBへの失望感もあって総じてリスク資産軟調の動きが目立った。レアルについては引き続き大統領選挙の話題が主で、現行政権継続の見通しが強まつたことから、構造改革への期待感が交代し、レアルは弱含みの展開となった。ユーロが大きく売られる一方で米ドルは引き続き堅調で、本日発表となった米雇用統計は予想を大きく上回る内容となったことからドル高基調は続きそうだ。

この週末にはブラジルの大統領選挙がある。事前の世論調査では過半数を獲得できる候補はおらず、10/26の決選投票にもつれ込む可能性が高いと言われている。現職ルセフ大統領とシルバ候補が決戦投票に残る可能性が高いと予想されているが、得票率によって来週のレアルはボラタイルな展開となろう。ルセフ大統領の得票率が予想以上に高ければ、レアル安方向で寄り付くと思われるが、ここまで1ヶ月略一直線にレアル安が続いているだけに、イベント終了後に利益を確定する動きが出てくる可能性も高い。

中銀動向にも注目が集まる。ロールオーバー金額の増額などのアクションはあったものの、レアルがリーマンショック後の高値を伺う動きになって来ているにも関わらず中銀は沈黙を守っている。通貨安の放置はインフレ懸念にも繋がるため、このままノーアクションというのは考えづらく、大統領選挙後に動きが出てきてもおかしくない。決選投票となれば選挙ネタは暫く続くことになるが、中銀が市場に何らかのメッセージを出し始めることができれば、相場は大きく反転する可能性もあり、注意が必要である。